

令和6年度 自己評価・施設関係者評価結果について

認定こども園青森ひかり

1. 園の教育・保育目標

認定こども園移行9年目。園の理念「子ども一人一人が輝く理想の場所であるために、地域及び保護者の子育てを支援し、子どもの生きる力の基礎を育むこと」を掲げている。

■「遊びこめる保育環境作り」・子ども主体の保育と行事の見直しと実施

- 1) 数年前から「遊びこめる環境作り」に取り組み、今年は異年齢交流等を重点的に実施できた。
- 2) 各クラス、子ども達の声を聞き、遊びや活動に反映したり環境設定では「遊びのコーディネーターチーム」で話し合い、試行錯誤し、工夫しながら実施している。
- 3) 特に3-5 歳児クラスでは、遊びを発展させ、行事（参観日・夏祭り・運動会・お遊戯会）での発表につなげる機会を持つことができた。一方で、行事が多く、準備期間を入れると遊び込みが分断されてしまうことが多かったことが反省点である。そのため、次年度はそれぞれの目的に立ち返りながら、行事内容を見直し・精選を行い、主体的保育に没頭できる環境作りに努めていく。

■障害児保育の知識と対応を学ぶ

- 1) 3-5 歳児クラスで個別の支援を要する子が増えてきており、集団の中で個別対応できるような環境を整備（手指訓練・精神安定・感覚おもちゃ・伝達表示物品等）し、コーナー保育制で選択して遊べる環境等を作っている。
- 2) 発達障害の知識や対応を外部研修・療育先との連携等で助言を頂くなどおこなった。また、今年度から、発達支援専門員の外部講師を招き、PBS 支援法（*Positive* な行動支援法）を学ぶ園内研修を実施したことで、園全体で意識を持ち、職員が対応法を学ぶことができた。次年度も引き続き PBS 支援法を学び、実践につなげていきたい。

当園「子ども像」として、以下の3項目を目標に挙げている。

- 1.なかよく…集団生活の中で子ども自身が友達と認め合い助け合う『思いやり』の心を持つ子
- 2.たのしむ…活動や遊びの中で育む『意欲を持つ』子
- 3.げんきな子ども…健やかで丈夫な体作りにつながる『生きる力』を持つ子

2. 重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した施設評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することで、保育者自らが客観的に自園を見る目を養い、環境全般の改善、保育内容や保育方法の改善に主体的にとりこんでいくことを目標とする。また、施設関係者評価を受けて、課題を確認し、その改善に取り組む。

<評価>

- 5…十分達成されている 4…達成されている
3…どちらでもない
2…取り組まれているが、成果が十分ではない
1…取組が不十分 コメントなども可

3. 評価項目の達成及び取り組み状況と評価

評価項目	取組内容	取組状況	評価
教育課程・指導	遊びこめる環境作り・子ども主体の保育の実施のため、「遊びのコーディネーターチーム」で工夫し、実践する。 行事の見直しに取り組む。	遊びこめる環境作り・主体的保育の在り方や環境設定等は、チームで話し合い、試行錯誤しながら工夫して行えた。主体的保育については、3-5 歳児クラスで、遊びを発展させ、行事（参観日・夏祭り・運動会・お遊戯会）発表につなげることができた。 ただし、前述のように、行事が多いため、遊び込む環境の分断・発展につなげられにくい等の反省点を踏まえ、次年度は行事の精選・内容の精査に着手し、実施していく。	4

保健管理	学校保健計画をもとに感染症発生予防や対応を含め、保護者との連携や園児の健康保持や増進に努める。	各感染症が少数だったのに対し、手足口病が通算で多かった。全国的にも大流行前の7月上旬、0 歳児クラスからの発症で、発疹が出る手足と床からの接触や玩具など何でも口に入れる年齢であるため、感染が広がった。他、インフルエンザAは、年末・年始と分散れて感染があった。 エピペン使用園児に対応できるよう、園内で実践研修・訓練を通し、マニュアル等の修正をおこなった。また、引き続き、熱性けいれんに関する訓練や対応整備（緊急時の対応・保護者との確認）を行った。	4
安全管理	学校安全計画をもとに、各活動の安全確保の取組を行い、職員の安全管理の意識を強化する。 ヒヤリハットの事例を把握し職員共有の上、発生防止・予防につなげる。	ヒヤリハットはICTアプリ内で管理し、3か月ごとの安全委員の分析と情報共有の機会を持っている。特に起きやすい曜日・時間・場所・園児の割出しとマップ表示で、職員間で周知し情報共有している。危険個所には、迅速に策を講じ対応できた。 離れ建設に伴い、防犯カメラを増台し17台となった。不審者対策・見守り・けが等の検証・保護者説明の提示に活用している。	4
災害対策	災害発生時の安全確保や通報訓練・避難・引き渡しまでの方法や手段を共有し、訓練を行う。 防災マニュアルや危機管理マニュアルの修正をする。	保護者の引き渡し訓練では、保護者との連携体制や引き渡し方法を確認することができた。 筒井地区の地域との連携を図り、筒井小学校での地域の防災訓練に園児と参加することができた。 BCP大枠は完成し、職員の内部研修を行ったが、防災マニュアルとの整合性を図り、細部の調整・職員周知の機会をさらに回数を重ねて実施していきたい。	4
特別支援教育	障害児保育の専門的知識・対応を学び、家庭・関係機関との連携を図る。 集団の中での個別対応の方法や環境整備を進める。	外部研修や療育先との連携で助言を頂く等学ぶことができた他、発達支援専門員の外部講師による園内研修で園全体で意識を持ち、対応法を学ぶことができた。次年度も引き続き継続して支援法を学び実践に活かすようにする。 引き続き、集団の中で個別対応できるような環境を整備（手指訓練・精神安定・感覚おもちゃ・伝達表示物品等）し、コーナー保育制で選択して遊べる環境等を作っていく。	4
組織運営	労働環境の改善と働き方改革の継続実施 職員の定着ケアの模索	職員のリスキングに目を向けられるよう、2年目となる外部講師によるコミュニケーションスキル講習と各自のジョブシートをもとに「キャリアコンサルティング面談」を実施した。今後の目標や資格、今の悩みなど、各自の振り返りと有意義な面談になったと好評だった。 働きやすい環境作りのため、各種休暇の他、定休の増加、勤務時間の短縮を行った。ほか、職員の家庭環境や持病等の状況により、本人と調整しながら働きやすい勤務時間を柔軟に対応実施してきた。 職員の定着ケアについては、職員間のつながりを大事にしたものやメンタルケアにつながる事を模索したい。	4
研修（資質向上の取り組み）	教育・保育の質向上のために、園内研修の実施や園外研修にも積極的に参加する。	はなれを建設したことで、会議・研修場所として使い勝手が良く、オンライン研修でも集中できる環境となった。 内部研修では「人権＝マルトリートメント・虐待・不適切保育・ふさわしくない言葉」をはじめとする保健・要配慮児・当たり前の保育の見直し等の園内研修実施。他園の公開保育に関する研修や保育の課題について話合う機会を多く持った。今後も保育の質向上について、取り組みを継続し改善に努めていきたい。	4

小学校 接続	小学校へのスムーズな接続が 図れるような工夫や取り組みを 積極的に行う。 幼保小連携研修に参加する。	「架け橋プログラム」実施で、筒井小学校と近隣園と の話し合いや複数回の交流を図ることができた。小学校 へ出向くだけでなく、学校からも2年生生活科・学 区探検を受入れた。 幼保こ小接続を見据えた5歳児のアプローチカリキ ュラムを策定し、秋から半年をかけて、無理なく小学 校での生活につなげられるよう日々活動を実践してい る。	5
教育・ 保育目標 施設評価	教育・保育目標の設定と自己 評価の実施状況、施設関係者評 価の実施状況、施設に対する保 護者の意見・要望等の状況	定期的な自己評価を踏まえ、アプリを使用し、各自 の状況や自分で立てた目標をもとに、目標を意識しな がら業務にあたるなど意識付けすることはできたが、 年2回の園長面談には満たなかったため今後努力した い。保護者には、各行事ごとのアンケートの他、父母 の会と卒園保護者向けアンケートを行い、意見要望の 収集と反省に活かすことができた。	3
情報提供	アプリを利用したドキュメン テーション等で保護者に保育活 動の状況を伝える。 HP活用等周知する工夫	保護者へはICTを活用した「保育ドキュメンテーシ ョン」で日々の活動を可視化している。 今年度はHPでのブログ機能を活かせなかったため、次 年度は、行事・活動内容等の公開につとめたい。	3
保護者・ 地域住民 との連携	施設運営への保護者、地域住 民の参画及び協力の状況。地域 住民から寄せられた具体的な意 見や要望の把握	園内行事は「ふれあい」を重視した活動を心掛け、 クラス懇談試食会では、保護者同士の交流を含め、好 評を得ていた。 地区で行われる地域高齢者の会での交流は、地域老 人会交流（筒井・奥野）に参加し、ふれあい遊びや遊 戯披露などで交流を深め喜ばれた。 昨年に続き、筒井中学校区で防災祭りに参加し、筒 井小学校への避難移動体験をおこなうことができた。 養成校の実習生や高校生インターンシップ・市外中 学生の職場体験受入れを行った。	4
子育て 支援	園庭開放を行い、0～2歳児ク ラスと一緒に保育体験・行事交 流をおこなう。 青森市の地区別子育て広場の 職員派遣の実施	今年度から期間を延ばし、5～1月の21回実施。 1回平均約4組参加の計75組が参加。園内外で、季節 に応じた遊びや体験を実施し、参加者からも好評だっ た。保護者同士関わりあえるようにテーマを出して話す 機会を持った。菜園での収穫体験や外での水遊び・栄養 士の離乳食講話は、保護者の関心度が高く参加者からも 好評だった。 行事交流は「運動会」未就園競技の他、「園内劇団公 演」や「夏祭り」でも参加交流をおこなった。 C地区子育てひろばに職員2名派遣し、地域の子育 て家庭への支援をおこなった。	4
預かり 保育	1号認定児の預かり保育時 間・料金など充実を図る。認定 変更の相談に乗り、子育て支援 に努める。	1号認定児の預かり保育時間・料金など充実を図って いる。2歳児クラスの満3歳児1号認定への移行の希望 者が多く、夏以降、1号認定希望の相談に乗ったり、移 行の対応を行い、支援につなげている。	5
教育・ 保育環境 整備	環境整備	主体的保育実施のため、保育環境に棚を設置したり 子どもの導線を考え、おもちゃの配置を変えるなど、 発達に合わせた環境設定を模索している。 4・5歳児クラスの床メンテナンス、遊戯室にエアコン 増設。はなれの建物を建設した。	4
食育	菜園活動・調理体験・栄養士 による食育指導を通じ、食への 関心を深める。 保護者が給食を試食する機会 を持ち、子育ての支援につなげ る。	菜園活動（苗植え・水やり・収穫）から調理体験に つなげていることで、野菜や食材への興味関心が広が り、子ども達の好き嫌いが減り、野菜を積極的に摂る 姿が見られている。 年3回、栄養士による食育指導を行い、食事のマナ ーや基本的な習慣、自然への知識も身につくようにな った。	4

4. 施設関係者評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
4.0	保育活動での「遊びこめる保育環境作り・子ども主体の保育」の実施に向け、行事内容の見直しが課題となったため、次年度から抜本的な改革を図る年となる。試行錯誤しながら、よりよい保育の実現に向けて保育者・職員が施設関係者評価の趣旨を理解し、振り返りと改善努力に繋げることができるよう今後も自己点検・自己評価に取り組んでいきたい。

5.今後、取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
・保育環境作り ・子ども主体の行 事内容の見直し ・障害児保育の知 識対応を学ぶ	【1】遊びこめる保育環境作り。 【2】「子ども主体の保育」をもとにした行事の見直しと実施。 【3】障害児保育の専門的知識・対応を学ぶ。

認定こども園青森ひかり 令和6年度 施設関係者評価 結果

《施設関係者評価項目》 5：とてもよい 4：よい 3：ふつう 2：あまりよくない 1：改善が必要

評価期間 令和6年3月19日～3月28日
評価者 父母の会代表者5名・5歳児保護者15名
評価方法 アンケート用紙記入、対面で協議 評価は平均点とした

		評価項目	評価
1	概要	園の理念、教育保育目標の周知	4.6
2		入園説明会や入園の際の説明や手続きについての対応	4.7
3	環境整備	園舎や施設設備（保育室内・手洗い場・トイレ等）	4.4
4		園庭・菜園について	4.8
6		遊具・おもちゃ・絵本の整備について	4.7
7	保健安全管理	園舎や施設設備の安全管理について	4.5
8		避難訓練等による、安全教育の実施	4.8
9		日常の健康観察や感染症の情報提供・取組について	4.8
10		怪我や体調不良時の対処	4.7
11	職員	職員の子どもに対する言葉使い	4.7
13		職員のチームワーク・雰囲気	4.5
15		職員の印象や対応（挨拶、電話対応など）	4.6
17		先生の保育技術(子どもへの対応や取組みのやり方など)	4.8
18		子ども同士のトラブルが起こった時の対処	4.6
19	活動面	行事について	4.3
20		園外保育やクッキング等の体験活動	4.8
21		主体的保育の取り組み	4.7
22		講師等の教室(英語、スイミング、絵画など)	4.7
23		菜園活動	4.9
24	給食等	給食の献立内容や量、素材を生かす薄味について	4.8
25		手作りおやつと内容について	4.8
26		離乳食の対応	4.7
27		食物アレルギーの対応	4.7
28	保護者支援	延長保育・一時預かりの実施	4.8
29		園と保護者のコミュニケーション(送迎時、連絡帳など)	4.6
30		年2回のクラス懇談会や二者面談	4.8
31		園だより・クラス便りでの園に関する情報提供の実施	4.8
32		コドモンアプリの活用 （ドキュメンテーション・一斉配信・写真販売・欠席お迎え申請）	4.8
33		献立レシピの配布・給食試食の実施	4.8
34		意見・相談への園の対応	4.5
35		地域の親子向けの園庭開放・子育て支援活動について	4.4
36	諸費用	諸費用①（園で徴収する給食代）	4.5
37		諸費用②（個人負担の教材費等）の量・金額	4.6
38		延長保育・1号認定の時間や費用、おやつなどについて	4.8

認定こども園青森ひかり 令和6年度施設関係者評価 結果

評価期間 令和7年3月19日～3月29日
評価者 父母の会代表者5名・5歳児保護者15名
評価方法 アンケート用紙記入、対面で協議

評価内容

1. 活動の取り組みの中で、気づいた点や意見

（1）子どもの姿について

＜子どもの姿＞

- ・小さい頃から泣かずに登園していることで、こどもが安心して過ごせていると感じた。
- ・子どもが毎日楽しそうに通っていた。（2人）
- ・一度も行き渋ることなく6年間過ごすことができた。
- ・土曜日はお友達も少なく休みたいと言いそうなのに、子どもは土曜日登園が好きで、こども園の皆のおかげでいつも楽しみにしていた。
- ・こども園での出来事を普段から話してくれるので、毎日、楽しく過ごしていると感じた。
- ・LaQを説明書通りに1人で組み立てて作れるようになったり、沢山のできることを増やしてもらえた。
- ・たくさんの友達ができた。
- ・外で発見した見たことのない虫を園に戻ってから図鑑やタグレットを使い、協力し合って調べている姿に感動した。
- ・途中入園だったが、クラスの子達だけでなく、他のクラスの子ども達も分け隔てなく仲良くしてくれたことで、こどもも安心して楽しく過ごせた。先生方の優しさと、学年関係なく接する機会が多いこども園の方針のおかげと思う。

（2）職員対応について

＜職員対応等＞

- ・いつも子ども達を第一に考え、保護者の意見も聞きながらより良くしようと取り組んでくれる。
- ・普段から子どもの自主性を尊重し、やってみよう!!と興味をもたせるような声かけが多いと思った。
- ・先生方が明るく、普段から相談できる雰囲気がある。
- ・園の雰囲気も先生方も皆優しく、子供を安心して預けることができた。（2人）
- ・先生方がとても優しく、話しやすく、相談しやすかった。（2人）
- ・お迎え時、こども園での様子を伺うことができてよかった。
- ・クラスが違う先生方でも、1人1人子供の事をきちんと見てくれていると感じた。
- ・配慮が必要な我が子を温かく見守り、何度も面談の場を設け、親身になって話を聞いて下さった。療育先との連絡を取り合って対応をして下さったこと。
- ・子どもを丁寧に見てくれること。子どもたちが安全に過ごせるよう配慮していただけた。（2人）
- ・クラスの人数が15人程度で、多すぎないので、先生の目が行き届いていると感じる。
- ・朝も帰りも先生方とお話するのが楽しかった。
- ・とっても安心できる園だった。入園時は不安もあったが、すぐなくなり安心して通う事ができた。先生方に恵まれて、最高の6年間だった。
- ・就学先で悩んでいる時も話も聞いてもらえた。一緒に考えてくれたこともとても感謝している。色々な事があっても、親子一緒に成長しながら乗り越えていけたらと思う。
- ・たくさんの経験をさせてもらい、子どもの成長を支えてくれた。
- ・先生方が優しく子どもに寄り添ってくれる。子どもの良い部分も知ることができ、よかった。
- ・いつも優しく時には厳しく、こどもを成長させてくれた。

（3）行事・活動について

＜全般的に＞

- ・いろんな行事があり子供が楽しそうでいい。（2人）
- ・一年を通して散歩、外遊びが多く体をたくさん動かす活動が多くていい。
- ・いろいろな物に触れる体験、習い事をさせて頂いたこと。
- ・自分の好きな遊びを思いきり楽しめる環境作り、子ども主体の保育・バケツ稲作り など、様々なことを実体験を通して学ばせてもらった。

- ・親だけでなく祖父母や兄弟、地域の方々と交流する機会があることで人見知りして小聲が多かった我が子も少しずつ積極性が育くまれた。
- ・運動会やお遊戯会などの大きな行事にみんなで参加できたこと。自分の子だけではなく、クラスの子皆の成長を感じることができた。
- ・たくさんの行事を通してたくさんの経験ができた。
- ・在園中に新型コロナウィルスが流行し、大変だったかと思いますが、色々な工夫をして、園での普段の生活や各種行事を行っていただき、感謝している。行事等を通して成長する姿を見ることができてよかった。
- ・お遊戯会・運動会 子供達がキラキラした表情で、本当に楽しそうに参加している姿がとても印象的だった。子供らしい姿が見られてとってもほっこりした。

<お遊戯会>

- ・一つ一つの行事がすべて良い思い出です。特に「お遊戯会」が印象深い。子供達の為に素敵な衣装を用意してくれて毎回感動した。毎年 成長を感じられる演目でとてもうれしかった。
- ・先生が用意する衣装がステキで、子どもの成長をとても感じた。
- ・お遊戯会では普段聞くことのない様な大きな声で堂々と話している姿に、園でいっぱい練習して頑張ったのが伝わった。綺麗な着物を着て踊る姿も感動した。

<運動会>

- ・「運動会」も親が参加できたり、子供と一緒に走る事ができてすごく思い出に残った。祖父母と一緒に玉入れもすごくおもしろかった。
- ・先生の配慮や準備のお陰で子供の頑張る姿も見ても成長も感じる事ができ、とても印象に残った。
- ・運動会でリレーで負けてしまった後にお友達が声をかけてくれ、励ましてくれている姿を見て、とても感動した。へこんでいるお友達に声をかけてあげられるような環境で過ごせてよかった。
- ・こどもと一緒に障害走や保護者競技をしたことが楽しかった。楽しむ前提でのぞみましたが、終わってみると全て全力を出して、息があがり汗をかいて皆と喜びを共有できた。
- ・よさこいをかっこ良く踊っていた事、リレーを頑張って走りきった事。下のクラスにいた頃は、自分の子供が年長になった時、本当にできるのか心配だったが、頑張っている姿を見て成長を感じ感動した。

<お泊り保育>

- ・親にとっても子供にとってもいい経験になった。翌日のお迎えで思った以上に寂しくなかったんだなと感じて、私がすごくさみしかった。
- ・はじめて家族と離れて1晩過ごしたことが本人の成長につながった。在園中1番の思い出はお泊まり保育だと教えてくれた。
- ・時間ごとにアプリで子供の様子を写真で知る事ができて安心した。親は気が気じゃなかったために、先生やお友達と楽しそうに映っていたので"良い経験ができたと思う。

<保育参加・参観日>

- ・小さい頃はパパ・ママ先生として保育に参加して可愛い様子を見れたし、大きくなってからの保育参観では、クラス合同で色々な遊びコーナーを子ども達が自分で選び、自由でのびのびと遊んでいる様子が見れて楽しかった。
- ・保護者参加型の参観日で、普段忙しかったり、下の子達にばかり構ってしまうことが多かったので、こどもと思いきり触れ合うことができた。

<卒園式>

- ・卒園式で先生方が涙を流してお祝いしてくれたこと。子どもたちを大切に思って接してくれたからこそその涙がとても嬉しかった。

<運動遊び等>

- ・子どもは体を動かすことが大好きだったので、小学生になっても負けない体作り等にも力を入れて子供達と楽しく、たくさん体を動かして、心と体もどんどん成長していける保育をしてほしい。

<絵画指導・英語教室・スイミング>

- ・英語教室やスイミングなどの習い事に参加できたこと。

(4) 食育・給食について

<菜園活動>

- ・ひかりっこ菜園やクッキングなど食育活動が素晴らしい。収穫を楽しんでいたのはもちちろんですが、食べ物や料理へ興味を持つようになった。

<アレルギー対応・給食・おやつ>

- ・給食や手作りおやつのメニューもすべて素晴らしい。
- ・食への気遣い。クッキングや食育指導、手作りおやつがあったこと。
- ・給食でいろんなものが食べられるようになった。
- ・アレルギー食への配慮をしてくれて、安心して通う事ができた。

(5) 保護者支援・子育ての支援

<ICT アプリの使用>

- ・ドキュメンテーションを通して、普段の子どもの様子を知ることができたこと。
- ・こどもたちがどんな風に過ごしているか、アプリの写真を通して知ることができて良かった。(2人)
- ・アプリで園での様子を沢山アップしてくださるのも感謝している。

(6) 保健衛生・安全管理

<感染症対策>

- ・衛生管理や感染症対策がきちんとされているので安心して預けることができた。

(7) その他

<その他>

- ・心配や不安だらけで入園したが、たくさん経験してたくさん学んで親子で成長できた。